

(件名) 新型コロナウイルス感染及びそのワクチンの長期安全性の確認をすることを求める陳情

(陳情の趣旨)

非常に不思議なことに、新型コロナウイルス感染についても、そのワクチンについても、長期的な影響がどうなるかが全く話題にならない。特にワクチンは健康な人々へ接種するため、通常は10年程度の期間をかけて開発され、長期安全性の確認をしてから実用化される。しかし、新型コロナについては緊急的な要請からか、このことが無視されてしまっている。

かごしま国体が夏から秋にかけて予定されているが、この時の人の流れにより様々な感染症が県下で流行する可能性もある。

長期間の潜伏期がある感染症はかなり多い。典型がエイズウイルス(HIV)だが、感染当初は軽い風邪のような症状が1週間程度続くだけだと言われている。これは、ある意味、新型コロナのオミクロン株の感染時の症状とよく似ている。もともと、新型コロナのスパイクタンパク部分にはHIVが、免疫細胞の一種であるT細胞に感染するときを使うgp-120と言う糖タンパクを形成するための遺伝子並びが含まれている。潜伏期間が長い病気の代表格である結核は、結核菌によって起こり、結核菌は免疫細胞の一種であるマクロファージの中で増殖する。

新型コロナウイルスは免疫細胞のマクロファージや単球にも感染できるとされている。感染時に使われる仕組みは病原体の最も外側にある部分にあり、コロナウイルスについてはスパイク部分であるため、スパイク部分を使ったワクチンも同じように免疫細胞を弱らせてしまう。つまり、新型コロナウイルスもそのmRNAワクチンも同じように免疫不全を引き起こすはずで、今後徐々にその影響が表面化するはずである。

新型コロナウイルス感染の確認は現在PCR検査以外にも様々なものが実用化されている。しかし、最も実績があるPCR検査であっても、偽陽性や偽陰性がかなりの規模で出ることが明らかになっている。これには、新型コロナウイルスが一本鎖のRNAウイルスであり、非常に変異しやすいことも影響している。その為、多くの検査で陰性になっても現実には新型コロナウイルスの何らかの変異株の感染をしまっている可能性はかなり高いと思われる。

よってワクチン接種に絞って、何らかの病気にかかった場合、新型コロナのワクチン接種歴の記録を取ることでワクチンの長期安全性がどの程度あるのかがある程度分かるようになる。

以上の趣旨により次のことを陳情する。

記

1. 新型コロナのワクチンを接種したかどうかを鹿児島県下の医療機関で新たな診察の時に記録にとり、それを県の担当課が統計として整理して公開すること。
2. 医療機関でワクチン接種歴を尋ねる時には、単に接種したかどうかだけを尋ね、時期とか場所などの記録は取らないで事務負担を軽減すること。

3. 県の担当課は疾病の種類とその疾病ごとのワクチン接種者の割合を年に一度公表すること。例えば、带状疱疹が令和5年度は10名で、その内8名がワクチン接種者であったのように。

以上